

大光山本圀寺ないくわうさんほんこくじは堀川松原ほりからまつばらの南にあり、法華宗にして一致派なり。開基は日蓮上人にちれんにて、初は相州鎌倉松葉谷さうしゅうかまくらまつばやつに建立

ありて法華堂となづけ、一宗最初の精舎なり。抑日蓮上人にちれん、姓は三国氏みくに〔聖武帝しやうむの苗孫なり〕父は遠州えんしゅうの刺史しし貫名重実ぬきなのしげさね

が次男重忠しげただ、母は清原氏きよはらなり。貞応元年二月十六日午の刻に房州小湊浦ぼうしゅうこみなとのうらに誕れり、十二歳にして同国清澄寺せいしやうじに登り、真

言を学び、十八歳にて落髪し名を是性ぜしやうと号し、後に自日蓮と改む。幼稚より才賢にて常に虚空蔵を祈る、ある夜の夢に

老僧来り、手に明星の如くなる宝珠を■さ、げて授与す、是よりして一を聞て十を悟れり。かくて諸宗にわたり南都北嶺ほくれいにい

たり、園城に入ては学窓に螢をあつめ、倩諸宗の議判蒙霧散しがたければ藏經を検、みづから諸經中王最第一の金言に

いたり、衆生成仏の根元なる事を見ひらき、建長五年三月廿一日三十二歳にして朝日にむかひ合掌し、始て南無妙法蓮

華經の七字を唱。清澄寺せいしやうじの南面にして、一山の僧其外守護職東条左金吾景信等しゆごしよくとうでうさ きんご かげのぶをあつめて法花を演説し、論釈の議文を

あらはしければ、諸宗の僧徒風に木葉の随ふが如し、是一宗流布の濫觴なり。弘長元年五月たひらのしげとき平重時これを妬いづのくにで伊豆国

伊東浦いとうのうらに左遷せり。又ある時相州龍口の汀さうしゅうたつのくちにして誅せらるべしとて敷草に座し給へり、天俄にかきくもり震動して、太

刀取眼くらみ劍段々にをれにけり、相模守大に驚き死をゆるし給へり。又文永八年には佐渡国さどくにに流され給ひしかども、

いよく天災ありければ赦免状をかの島におくりしより、宗派海内に隈なく流布し、遂に相模守も貴敬し。上人は文永

十一年五月に鎌倉かまくらを出て甲州身延山かふしうみのぶさんに入て草庵を結び、春の朝には花を折て仏に供し秋の夕は山月を待て經書を照し、

又ある時夜の雨の窓におとづれければ

心とは邪にふる雨はあらし風こそよるの窓にうつらめ

日蓮上人

後宇多帝ごうたていの御宇弘安五年十月十三日、武蔵国荏原郷池上左衛門宗仲むさしのくにえはらのがういけがみ むねなかの家にて遷化し給へり。〔行年六十一歳〕鎌倉松葉谷がやつの法華堂を日朗にちらうに附属し、又日印いんこゝに住し、日静せいの時勅願所と成、貞和元年くわうみやう光明帝の勅によつて相州鎌倉より華洛六条堀川に移す。〔此地古は六条判官はんぐわん為義の館なり、源義経みなもともこゝに居せし事平家物語にあり〕本堂は法華経を本尊とす。〔日助僧都にちじよそうづ一字三礼の筆なり〕立像堂には釈迦仏を安置す。〔豆州伊東とうしういの海底より漁人の網にかゝりて出現し給ふ靈仏なり〕祖師堂そしだう〔日蓮上人の影、其外日朗らう日印いん日静せい日像ぎやうの影を安ず。此堂は八条戒光寺かいくわうじの薬師堂なり、瓦に戒光寺の銘あり〕刹堂せつだう〔鬼子母神十羅刹女きしもじんじふらを安置す〕方丈はうちやう〔妙法花院と称す。此亭初は江州安土あづちにあり、画は狩野永徳の筆、額は水戸黄門光圀卿の筆なり〕人麿社ひとまろのやしろ〔方丈の庭にあり、尊氏公たかうぢこゝに楼を建、観柳亭くわんりうていとなづく〕皇諦石かうたいせき〔二名祈願石ともいふ、方丈の東にあり〕鴛鴦曼陀羅をしどりのまんだら〔日蓮上人の筆なり。表具は花色地にして、一寸許の鴛の地紋なり。楊貴妃やうきひの袍といふ。是を本圀寺切となづく〕